



会員卓話

## 『自己紹介』

野村 利治 会員(82歳)

(1976年7月8日入会)

今日は、この私の為に貴重な時間を頂き有難うございます。何をお話したらよいのか随分迷いましたが、

私はプログラムの中で一番好きなのは新しく入会された方の新人卓話をお聞きする事です。よく自分の紹介を兼ねて身の上話が出て参ります。事實は小説より奇なりと申されますが個人のノンフィクションが好きなのです。そこで私も新人卓話として私の身の上話をさせて頂きたいと思ひます。

さて、かく云う私、野村利治は、みなべの小さな酒屋の子供として生まれました。そしてみなべで育ち今に至っています。82才。道中10年程は留守にしましたが、云わば生粋のみなべ人間であります。

父は、新庄の野村富也氏の家から生後すぐに養子子として来ました。そして母は、元町から嫁いで参りました。したがって血液は田辺の血液であります。然し母は私を産んだ後の産後の不養生から結核を患いすぐに養生の為元町の里に帰りました。従って私は人工栄養で祖母と子守の姉やに育てられました。

4歳で母が亡くなり、5歳で祖母も亡くなり、結果父と二人の生活になりました。ただ、生母の母が元町に居りましたのでよくみなべに来て面倒を見て貰いました。この祖母が帰った後の着物の樟腦の香りの残った座布団を抱いて押し入れに入り布団の上で泣いた事を覚えています。矢張り淋しかったわけでありました。その頃には結核菌の影響で結核の母の子供は、よく大病を患い、未だ免疫力が弱いので死亡したのですが、私も案の定5歳の時に大病を患い医者に見放され死にかかりましたが何とか生き延びられました。幸運の一語に尽きます。実質上の私の人生の始まりであったと思ひます。

小学校4年の秋に父が再婚し、新しい母が来てくれました。良き母でしたのですぐになつきました。父と二人の淋しい生活は一変したのであります。それに可愛い弟や妹が次々と生まれ3人の兄弟が出来たのです。私は子供好きでありました。やっと私にとって荒れた生活から幸せな生活に変貌したわけでありました。教員室にしょっちゅう立たされていた喧嘩一番のあばれ者が右総代でみなべ小学校を卒業する事が出来ました。父は自らの母校、田辺中学に入れてくれました。五年卒業後は和歌山高商に進学、卒業後は伊藤忠商事に入社しました。大阪から東京転勤と続き、多くの友人に囲まれ独身寮住まい、非常に楽しい生活でした。後は十年程の海外駐在を経て帰国、常務、専務、社長との予定でありました。処が、事はそうそううまくは参りません。ある早春の日の帰り道、一杯機嫌で神田駅の八卦見に寄ったのです。八卦見は大変驚き険しい顔で申しました。「何と悪い相をしているのだろう。気をつけなさいよ。」一週間後、父病死・52歳でありました。父の死後、家業の酒屋は母独りでは出来ず、多

少の借金もあり、親子四人路頭に迷うというのであります。有名な杜甫の「帰去来の辞」の一節であります。「田園まさに 荒れなんとする いざ帰りなん」

私は、ロータリーにはみなべの長井利一良さんに勧められて入会し、在籍36年になります。その間には会長もさせて頂きました。

毎年R.I.会長の年次のテーマがありますが、私にとっては、畑地 浩さんの会長時のテーマ、「Enjoy Rotary」「ロータリーを楽しもう」私の時の「Be a friend」「友達になろう」この二つが年次を抜けて秀抜なテーマだと思っています。何かと小難しいテーマを寄せ付けません。

ロータリーゴルフは実に楽しかったです。幹事は瀬戸勝次氏・田中 昇氏・長野 羊氏の方々にお世話になりました。組み合わせで私はいつも女性陣に入ります。畑地夫人、黒田夫人、榎本夫人、野村夫人、廣本夫人の美人群であります。これはやはり私の実力が彼女等と丁度マッチしていたからだと思っています。

或る年、地区大会のゴルフ大会が河内長野の天城山カントリーでありました。私は運よく当日賞か何かで賞品を頂きました。何とビール一年分と云う事でありました。ビール360本ポリ箱で18箱です。気が大きくなってあっちこちと大盤振る舞いをして殆ど使い果たした頃、地区事務所から賞品が届きました。処がビールは「小ビン」一年分でした。これは詐欺であると激怒したのですが、そうも参りません。ビールには元々大ビン中ビン小ビンとありますが、このうちどれか特定していなかったのですから。然しロータリー地区事務所には注意が必要です。一癖も二癖もあります。昔話になりますが、田辺クラブには当時色々の組合がありました。前立腺組合・白内障組合・痛風組合、私は痛風組合にお世話になりました。

最後になりましたが、皆さん、健康診断の帰り道、八卦を見て貰って下さい。大変勉強になります。

御清聴有難うございました。



会員卓話

## 『入会当時の思い出』

多屋 陸夫 会員(85歳)

(1969年7月3日入会)

私の家はチャーターメンバーの高垣五一さんの家の向かい側でした。当時青二才で歳も若かった為、すぐに入会には至りませんでした。そして、職業分類が大変厳しかったので、入会することが難しい時代でした。田辺クラブは入りにくいクラブであり、また退会する事もなかなかさせてくれない非常に厳しい世界でした。入会当時は、今も現役の榎本さんがいらっしやいます。チャーターメンバーは本当によく勉強されていました。今は定款や細則など、あまり知らないメンバーは半分以上いると思ひます。

幹事になればやはりしっかり勉強されると思ひます。ロータリーに「ノー」はないと教えられ、言われた時は「ハイ」と言え、と教えられて今も肝に銘じて私の中で生き続けております。

